

ワークショップ

「未来に伝えたい文化財」の 実施結果について

ワークショップの目的

藤沢市文化財保存活用地域計画の作成にあたり、江の島、藤沢宿、大庭城をテーマとして、現状と課題を捉え、保存と活用のアイデアを市民の皆様からいただくことを目的として開催しました。

ワークショップの概要

日時 2024年12月14日(土)午後1時から午後5時まで

会場 藤沢市役所本庁舎 8-1 8-2会議室

対象者 藤沢市の歴史や文化財に興味関心のある方

参加者 37人(江の島3グループ、藤沢宿2グループ、大庭城2グループ)

ワークショップの内容

- 1 藤沢市の歴史について全体講義
- 2 「江の島」「藤沢宿」「大庭城」のテーマ別講義
- 3 グループ討議
- 4 グループ発表



グループ討議の様子



グループ発表の様子

発表内容について

未来に伝えたい文化財

テーマ・グループ番号 江の島 ①

現状・課題

- ・植生の取り組みの不足
- ・観光客への江の島の歴史的文化的価値の露出が不足(オーバー・ツーリズム)
- ・地元の子供も通への地域学習の機会が不足?
- ・浮世絵館はあるが、歴史資料館(博物館)が必要
- ・江の島と大山詣 セットでの露出不足
- ・オリンピック開催のため、国指定から県指定の観光地に移す計画

課題に対する取組

- ・残す不選び: 精進樹を保存
- ・国指定の観光地へ国際観光都市を目指す
- ・国内外へ江の島の文化的価値をアピール、アニメなど子供も大人も楽しめるツールを効果的に使う(歴史に親しむをかわけ作り)
- ・地元の子供も通への歴史文化の伝承(課外授業など)
- ・歴史資料館の設置(江の島に新たな女性センターの跡地を活用)

未来に伝えたい文化財

テーマ・グループ番号 大庭城 ⑥

現状・課題

1. 公園施設や文化財の整備および活用の仕方
2. 親水公園との一体性(表門や駐車場)
3. 地域住民を巻き込んで興味を拓く年代層を広げる

課題に対する取組

1. バリアフリー
 - ・文化財としての設備の整備(看板、二次元バーコード)
 - ・復元モデル
 - ・ボランティア活用の積極化
2. 公園同士の連携
 - ・お城と自然との連携
3. 子供達へ教育を通じて周知
 - ・ボランティアガイドの養成と活用
 - ・イベントの開催を増やす

当日発表資料の一例

1グループ:江の島

現状と課題	課題に対する取組
・植生に対する取組の不足(植生は特徴的で価値が高いと聞いた) ・観光客への江の島の歴史的文化的価値の露出が不足 ・オーバーツーリズム ・地元の子どもたちへの地域学習の機会が不足 ・浮世絵館はあるが、歴史資料館(博物館)が必要 ・江の島詣と大山詣のセットでの露出が不足 ・1964年のオリンピック開催のため国指定から県指定の史跡に格下げれたまま	・残す木を選び、精英樹を保存する ・国指定の観光地へ、国際観光都市を目指す ・国内外へ江の島の文化的価値をアピール ・アニメなど子どもから大人まで広めやすいツールを効果的に使う →歴史に親しむきっかけ作り ・地元の子どもたちへの歴史文化の伝承(課外授業など) ・歴史資料館の設置(江の島にあった女性センター跡地を活用)
その他の意見・キーワード等	
・弁天松はなくなった ・木の種類の表示(島特有の樹木の有無すら分らない現状) ・神の島(小泉八雲の足跡を残す) ・日本三大弁財天(安芸の宮島、近江の竹生島、江の島)の一つであるということも認知されていない ・島民と観光(巨大化・商業化しすぎている) ・海外の観光客でも、文化的価値を知り、それを目的に来訪するケースもある(岩本楼など) ・江の島まで来ても島内のアップダウンが激しくて大変である	

2グループ:江の島

現状と課題	課題に対する取組
・羽島の三觜家を取り壊された ・博物館や美術館がない ・島全体が県の史跡及び名勝 ・有形文化財(仏像などの彫刻や神社の建物等多く所在する) ・民俗文化財(江の島ばやし等) ・島の景観 →県の規制15m以上の建物は禁止 - 島民の思惑と県の規制をどうするかが課題 ・島の人口が減少、高齢化が進む →文化財(江の島ばやし等)をどのように維持していくのかが問題 - 今後、島の人たちがどうしたいのかが重要	・民間の人が声を上げる必要がある(日本人はおとなしい) ・文化財の重要性を広く知らせるよう認知度を上げる活動が必要 ・江の島全体に多くの団体があるが、島の人たちの意見を取り入れ、島全体としてどうするか →市として江の島サミットを開催するなど ・文化財の予算を増やす ・藤沢交流館の役割が分からない →文化財についてもっとPRする必要がある ・茅ヶ崎・平塚には博物館があるが、藤沢は44.5万の人口を有するのに博物館・美術館がない →博物館の建設 ・今回の結果を郷土歴史課の活動に反映してほしい
その他の意見・キーワード等	
・藤沢市が文化財の保存・維持をどうしていくのか知りたかったため参加した ・景観としての江の島⇄住んでいる人々の暮らし ・建造物等の所有の問題 →市が買い取って活用することはできないのか ・児玉神社の問題 ・天王祭 東町(漁師町)と宿(西町)のお祭り ・地域の人々が知っている伝承を語り継ぐことの重要性 ・藤沢は歴史的に見ても「通過交通」の街(目的地になりにくい) →交通の便がよく都心から日帰りが可能 / 宿泊してもらえずお金が落ちない ・江の島には多くの観光客が訪れるが、岩本楼への宿泊者は増えない	・藤沢市に宿泊しても、鎌倉や横浜に遊びに行っている ・江の島はアジア人、鎌倉は西洋人の観光客が多く、スラムダンクの聖地(鎌倉高校前駅の踏切か)や鎌倉観光のついでに江の島に訪れる ・地元の間人が江の島に行く機会は少なく、江の島に行くのは外からの観光客くらいだ(モンサンミシエルも同様) ・江の島に江の島の博物館を新設してほしい ・藤沢市民が藤沢市の歴史について知ることができる場所がない ・ボランティアガイドたちは独学で市の歴史を学んでいる ・小田急百貨店の図書館と市民ギャラリーは、交通の便が良く市民が集いやすいため、残しておいてほしい

3グループ:江の島

現状と課題	課題に対する取組
・江の島は物見遊山で訪れる人が多い →テレビ等でよく放送されて全国的によく知られているが、魅力あるたくさんのことが知られていない →江の島を深掘りしてもっと知ってほしい ・江の島は都市計画がよくできていない ・海の家など一時的なものが多い →ヨットハーバー跡を観光客のための施設にするなど ・若い人々はパワースポットとして興味を持つことが多いが、江の島の歴史にも興味を持ってほしい ・近年は若い人々の参詣マナーがよくなっており、賽銭も増えた ・観光客数に対して食事をするお店が少ない ・オーバーツーリズムの問題	「江の島をもっと知ってもらいたい！！」 ・デジタル化(アニメ制作、インターネットなど) ・博物館の設立(館内で文化財の価値について深掘りした資料を作成し、設置する) →弁財天などのレプリカ、岩屋模型図など ・江の島道(ルート)の説明書き、案内板の整備 ・リゾート化(レクリエーション、レジャー化) →若年層へのアピール
その他の意見・キーワード等	
・島全体を文化財としてとらえられる ・どうして人が集まってきたのかについて関心がある ・以下、江の島の特徴要素及びその活用案など(広範囲に周知PRする方法としてドキュメント仕立てのTV番組化等を作成するなど) ①江の島縁起絵巻の活用 →複製本制作配布、現代語訳、アニメ制作、遊行寺宝物館の取り組みなど ②弁財天は印度から伝来し、江の島弁財天は廃仏前20体、現存8体、島外4体である →三社本尊は当時の御影札に描かれていた ③龍神信仰で知られる伝説五頭龍にまつわる五洞窟(洞窟数は大小二つ)がある →岩屋本宮 第一、第二、山二つ西Cv6、山二つ東Cv7、釜の口西Cv1 岩屋の出来方、江の島の地形なども特徴的で、島全体を地球科学館とも捉えられる ④仁王門等の3DCG再現 →金亀山与願寺、三社、宿坊、三重塔、鐘楼などを江の島絵図をもとに作成	⑤弁財天道標は福石由縁でかつては48基あったが、現存するのは16基である →全体マップの作成、江島道ルートの各説明板の充実化を図る ⑥展望灯台の展示として、模型による初代灯台と形状比較、灯台性能紹介、6か所の視認場所による江ノ電パノラマなどが考えられる ⑦懸垂電車(モノレール)、ロープウェイ、エスカー、遊覧船等の計画やその変遷 ⑧湘南港とヨットハーバー、オリンピック5体女性像、江の島遊び場、さざえ島、釜の口釣り場、稚児ヶ淵海食棚などの海にまつわる歴史も特徴である ⑨近代の歴史に関する児玉神社、文学碑・句碑詩碑等の各説明板や全体マップの充実 ⑩江の島風景の特徴 →江之島八景と現在の姿の比較、空撮によるひょうたん島のような形状、藤沢浮世絵館所蔵の浮世絵からみる江の島、トンボ口、富士山と江の島(稲村ヶ崎、七里ヶ浜、逗子大崎公園、立石公園)

4グループ:藤沢宿

現状と課題	課題に対する取組
・痕跡は残っているが、消えそう ・歴史を訪ねる遊歩道がない ・歩行者にやさしい道づくりが必要 ※芝 ・パンフ等の表記の検討が必要 例:東海道湘南藤沢 ・歴史に沿った「歩きのコース」の設定が必要 例:道標を確認しつつ(既存のコースでは不十分) ・境川を利用した観光周遊コースの設定が必要 ・伝説の掘起こしが必要	・トランスボックス「藤沢宿を歩いて見よう」を残してブラッシュアップする ・「小田急藤沢本町駅」の改修時には周辺に「藤沢宿」をアピールできるものとする ・江の島神社「一の鳥居」の再建 ・「道標」の再整備(別案:歩きやすい遊歩道に設置) ・藤沢宿に現在住んでいる人の気持ちを大切に →住みやすい環境づくり ・名物になる食べ物の開発(弁慶餅、砂糖漬、パン屋など) ・周遊交通網の整備の検討(史跡周遊コース) ・勉強会の実施 →老若男女の参加
その他の意見・キーワード等	
・歴史は真実の必要なし ・昭和30～40年代に街の様子は大きく変わってしまっているが、部分的に残っている ・江の島目的の観光客を呼び込むための魅力づくりが必要である ・弁財天の「出開帳」の様子 ※現在は浮世絵館に任せている ・開発は道の歴史、不便でも良い道は残る ・車がなくても過ごしやすいまちづくり ・蔵の利用・名物による収益化が効果的ではないか ・商店街の継続、祭りの存続などは若い世代へつなげていく必要がある ・点在している文化財を線で結んだ整備が必要である	

5グループ:藤沢宿

現状と課題	課題に対する取組
・史跡へのアクセス困難(案内板不十分) ・ふじさわ宿交流館に入りづらい ・盛り上げるイベントはあるが単発的で、継続性や一貫性がない 実施主体の方向性がバラバラで力が分散してしまっている ・文化財の保存 →保存・修理にはお金がかかる ・「宿巡り」のリピーターが訪れるための魅力不足 ・御殿跡には歴史的魅力があるが観光資源になっていない	・アクセス改善 →見える化、ICT(QRコード、VR)の活用 ・藤沢らしさ →行政・市民で目標を再構築して推進していく ・推進には人・団体の組織化(とりまとめ)が必要 ・シンボルタワー →遊行寺、交流館、桔梗屋を中心に回遊性を高める 【事例】 ・蔵カフェの街 ・旧藤沢公民館(現:本町消防署)、サイクリングスポット(休憩所)、境川→引地川への回遊性の向上
その他の意見・キーワード等	
・桔梗屋でのイベントはコンスタントに実施されているが、キッチンカー・野菜の売上の伸び悩み →川床など、複合的な活用 ・周辺には寺社が多く団体活動も盛んであるが、ベクトルを同じにして持続性・一貫性のあるイベントを実施する必要性(連動性・相乗効果) ・クーポンによる次回割引→リピーターを増やす工夫 ・コンセプトの設定が必要 ・街なみ百年条例 ・神奈川宿は内/外の双方を意識している、道をたどりやすい ターゲット(内/外)に応じた利活用の検討が必要 ・庚申塔の修理 ・クラウドファンディングの活用 ・駅から交流館まで800mくらい、ややアクセスしづらい ・遊行寺や交流館だけで終わらずに周遊してもらう(白旗神社、桔梗屋、御殿)、滞在時間を延ばす →ベンチなどの休憩施設が必要	

6グループ:大庭城

現状と課題	課題に対する取組
1. 公園施設や文化財の整備及び活用の仕方 (文化財としての保存にあまり注力されていない、坂道が多い、雑草で遺構が見えづらい) 2. 親水公園との一体性 (表門が未整備、駐車場が狭すぎる) 3. 地域住民を巻き込んで、興味を抱く年代層を広げる	1. ・バリアフリー ・文化財としての設備の整備(看板 二次元バーコード) ・復元モデル ・ボランティア活用の積極化(草刈りなど) 2. ・公園同士の連携(親水公園に広い駐車場がある) ・お城と自然との連携(木々の剪定など) 3. ・子どもたちへ教育を通じて周知 ・ボランティアガイドの養成と活用 ・イベントの開催を増やす
その他の意見・キーワード等	
・管理棟の活用 ・大庭城に関わる各団体や行政の方向性がバラバラのまま動いている、連携が取れていない ・シンポジウムを通じてわかったこと →城としての認識・存在感が足りない、歴史的な公園としての周知が必要 ・観光資源としての整備が必要(PRも含む)、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に大庭景親が登場していたが、その時がPRのチャンスだった ・堀が未整備(行政的な支援の不足) ・カフェなどの整備はどうか ・歴史と公園の価値及び機能が共存していくように ・大庭城の文化財や四季折々の姿をPRすべき(ドローン活用など)	

7グループ:大庭城

現状と課題	課題に対する取組
・認知度が低い(大庭城跡は湘南の名城?) ・認知してもらう価値・意味がはっきりしていない (総合公園・歴史公園としての様々な価値があるのに) ・調査・整備された価値の成果が見られる場所、拠点が分からない、存在しない ・地元が分かっていない(地元の人にさえ伝わっておらず、マラソンやお花見のイメージしか持たれていない) ・資金を集める必要がある(市が一体となって取り組む)	・価値が高いのなら、それを発信して認知度を上げる (外に向けての発信の工夫、整備) ・価値が分かるように、情報をはっきりさせて整備する ・認知度の挙げ方を市として取り組む(次世代の子供たちに知らせる) →博物館等をつくる →大庭城読本をつくる(学校副教材として作成、一人一冊は難しくとも学校や図書館に置く等) →教員を対象とした研修を夏休みに行う
その他の意見・キーワード等	
・「城」としての歴史的な価値づけ ・自然が豊か、地層を学習するのに教材として最適な場所→一か所掘って地層を見学できるようにする ・学習指導要領の在り方(室町時代の関東についてはなかなか取り上げられない) ・発信する価値や魅力があるのか、そこから整理・ネタ集めが必要 ・歴史は城だけではない、他の時代の遺跡も見つかっている、城の歴史だけを推す必要はないのではないか ・管理棟で展示されているがもっと充実したものが必要 ・NPO法人を作って支援を受ける、若い人にも加入してもらう ・教育委員会との連携	

まとめ

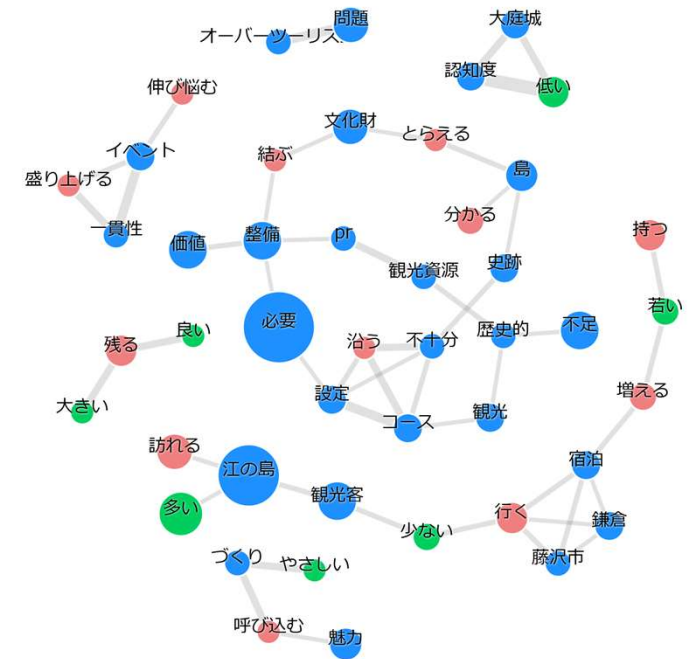
江の島

現状と課題

- ・観光客への江の島の歴史的文化的価値の周知が不足
- ・オーバーツーリズムへの対応
- ・地元の子どもたちへの地域学習の機会が必要

取組

- ・地元の子どもたちへの課外授業などを行う
- ・国内外へ江の島の文化財的価値をアピール
- ・子どもから大人まで広めやすいツールを効果的に使う



分析手法の一例(共起ネットワーク)

藤沢宿

現状と課題

- ・現状のハイキングコースがわかりづらい
- ・イベントの継続性と一貫性の欠如
- ・痕跡が残っているが、維持が難しい

取組

- ・新たなハイキングコースの設定
- ・遊行寺、交流館、桔梗屋を中心に回遊性を高める
- ・行政と市民の協力による藤沢らしさの再構築

大庭城

現状と課題

- ・認知度が低い
- ・地元住民の大庭城に対する理解度が低い
- ・文化財としての保存・活用に注力されていない

取組

- ・子どもたちへ教育を通じて周知
- ・地域住民を巻き込んで、興味を抱く年代層を広げる
- ・文化財としての価値が周知できるよう整備を行う

ワークショップ全体のまとめ

- ・文化財としての価値の周知が不足

- 幅広い世代にPRする
- デジタル化やICT技術などを活用する

- ・学校教育との連携が必要

- 地域学習の一環として地元の文化財を題材にする

- ・展示施設の整備が必要

- 展示機能付収蔵庫の整備を行う